

# 衆議院財務金融委員会ニュース

H28.4.20 第190回国会第14号

4月20日(水)、第14回の委員会が開かれました。

## 1 金融に関する件(通貨及び金融の調節に関する報告書)

- ・通貨及び金融の調節に関する報告書について、黒田日本銀行総裁から説明を聴取しました。
- ・政府参考人及び参考人に対し質疑を行いました。

(参考人) 日本銀行総裁 黒田東彦君  
日本銀行理事 雨宮正佳君  
日本銀行理事 櫛田誠希君

(質疑者及び主な質疑内容)

### 大野敬太郎君(自民)

- ・IMFの経済見通しの下方修正等を受けて、日銀は世界経済を俯瞰的な視点からどのようにとらえているのか。また、世界経済の影響を踏まえ、国内経済についてはどのように理解しているのか伺いたい。
- ・金融政策において市場との対話やサプライズの必要性などが指摘される中、平成28年1月にマイナス金利付き量的・質的金融緩和(以下「マイナス金利政策」という。)に踏み切った意味を伺いたい。
- ・世界経済の停滞や、為替政策に関する国際協調が求められることで金融政策の幅が狭められるという懸念についての日銀の認識を伺いたい。

### 鈴木克昌君(民進)

- ・平成28年熊本地震の金融システムへの影響と今後の対処方針について伺いたい。
- ・パナマ文書問題について、邦銀のオフショア向け債権残高が近年増加している現状を鑑みると調査を行う必要はないのか。また、金融機関がペーパーカンパニー設立に関与している現状から、金融機関の在り方や道義的責任についても伺いたい。
- ・本年4月12日付けフィナンシャル・タイムズ紙に、ユーロ圏におけるマイナス金利政策の政治的限界について述べた記事が掲載されているが、この記事に対する日銀総裁の考えを伺いたい。

### 今井雅人君(民進)

- ・マイナス金利政策導入後その効果が現れるまでのタイムラグについてどの程度の期間を想定しているのか。国内物価のかく乱要因である中国経済や原油価格の動向が2月以降落ち着く中、追加緩和の可能性はあるのか。

- ・量的緩和政策における一定水準の限界及び出口政策の困難性から見た更なる量的緩和の可能性について日銀総裁の考えを伺いたい。
- ・追加緩和策として上場投資信託(ETF)買入れ枠の拡大が噂されるが、ETFという小規模かつ期限のない資本市場に介入することの正当性について、日銀総裁の考え方を伺いたい。

### 木内孝胤君(民進)

- ・日銀総裁が出席した先週末のG20ワシントン会合における世界経済の現状認識は、本年2月末の上海会合の時と比べ、中国経済の減速や原油価格が落ち着いてきたこともあって、相当変化があったのではないかと。
- ・日銀による長期国債買入れが事実上の財政ファイナンスではないとする論拠と、いわゆるヘリコプターマネー政策を実施する可能性について日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・平成28年熊本地震が日本経済に与える影響も踏まえ、来年4月に予定される消費税の増税が個人消費に与える影響について、日銀ではどのように分析しているか。

### 宮本徹君(共産)

- ・日銀のホームページに、「5分で読めるマイナス金利」というものがあるが、誰を対象に作成したのか。また、デフレから抜け出すために「今はがまんして金利を低くして、もっと景気を良くして、物価をもう少しだけ上げていく」と書かれているが、これは日銀が、マイナス金利により国民の所得が減るのを黙って我慢しろと言っているのに等しいのではないかと。
- ・日銀の生活意識に関するアンケート調査で、マイナス金利政策前と比べて景況感に関する指標が軒並み下落しており、国民はマイナス金利政策導入の効果に懐疑的であることを示している。日銀は、異次元緩和の効果について一度総括すべきと考えるが、日銀総裁の見解を伺いた

い。

- ・先日のルー米財務長官の発言から、日米の財務当局で為替に対する認識が共有されていないのではないか。

### **丸 山 穂 高君（おおさか）**

- ・先日の質疑において、日銀総裁はマイナス金利政策の金利幅の水準に限界はないと答弁していたが、現在も同様の認識か。また、国債の買入れの限界はいつぐらいになると認識しているか。
- ・いわゆるヘリコプターマネー政策について、日銀において検討したことはないのか。
- ・現下の円高、原油安の状況から、物価安定目標が達成できるのか日銀総裁の認識を伺いたい。